

第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人兵庫教育大学

1 全体評価

兵庫教育大学は、教員の資質能力の向上と学校教育の改善を求める社会的要請に応えるため、「現職教員に対する専門職として高度な専門性と実践的指導力の育成」「実践力と人間性に優れた新人教員及び心理専門職の養成」「学校教育に関する理論と実践を融合した研究（教育実践学）の推進」「教員養成・研修の先導的モデルの構築」「教育研究成果の発信」を使命としている。第3期中期目標期間においては、教員養成・研修の高度化を最重要課題とする中核的な機関として、学校現場に密接に関連した実践的な教育研究を行うことを基本的な目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	顕著な成果	上回る成果	達成	おおむね達成	不十分	重大な改善
教育研究						
教育			○			
研究			○			
学び直し		○				
社会連携		○				
その他			○			
業務運営				○		
財務内容			○			
自己点検評価			○			
その他業務			○			

（教育研究等の質の向上）

教職大学院に日本の新しい地方行政をリードする人材を育成することを目的とした「教育政策リーダーコース」及び国際社会で活躍できる人材を学校現場で育成することを目的とした「グローバル化推進教育リーダーコース」を新設している。また、兵庫県の大学や、近隣の教育委員会と連携し、教員養成の高度化に資する大学の教育課程及び学部と大学院の接続について協議を進めている。

（業務運営・財務内容等）

教員養成及び現職教員の研修の高度化を推進するため「教員養成・研修高度化センター」を設置している。センターでは、独立行政法人教職員支援機構や全国の大学等と連携し、ナショナルセンターとしての役割を担うとともに、地域の教育委員会等と連携して教員養成の高度化に係る事業を推進している。

一方で、大学院専門職学位課程における学生定員の未充足があったことから、改善に向けた取組が求められる。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

＜評価結果の概況＞	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善事項
(I) 教育に関する目標			○			
①教育内容及び教育の成果			○			
②教育の実施体制			○			
③学生への支援			○			
④入学者選抜			○			
(II) 研究に関する目標			○			
①研究水準及び研究の成果			○			
②研究実施体制等の整備			○			
(III) 現職教員の高度化に資する 学び直し・研修に関する目 標		○				
(IV) 社会連携及び地域に関する 目標		○				
(V) その他の目標			○			
①グローバル化			○			
②附属図書館			○			

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

1-1教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）4項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-1-1（小項目）

【判定】中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 学修成果の可視化

履修者の成績分布を確認できる成績分布図、科目群ごとの単位修得状況、教員養成スタンダードの5領域に関連する授業科目の単位修得状況とその成績スコアTeachers' Standard-based Score（TSS）の集計によって、学修成果の可視化に努めている。

学修成果の可視化の有効性を検証する取組として、教育改善推進室において学修成果の評価の方針アセスメント・ポリシーに基づく学修成果の評価実施計画（年次スケジュール）を策定している。収集した状況データに基づき、取り組むべき課題及び改善策を教育改善推進室において取りまとめることとなっている。（中期計画1-1-1-2）

1-1-2（小項目）

【判定】中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 大学院における学びの実質化

大学院用の教員養成スタンダードを修士課程の平成28年度入学生から適用し、大学院生が自ら立てた在学中の自己課題に基づき、指導教員の指導の下で振り返りを行っている。各年度の後期開始時に大学院生と指導教員が面談を行い、自己課題を見直せるよう改善を図り、振り返りの結果をファイリングし、そこに記された自由記述を用いて、令和元年度には『教員養成スタンダード（大学院）に基づく学生の力量形成の状況』としてまとめており、大学院修了生の学びの成果として可視化している。（中期計画1-1-2-1）

57 兵庫教育大学

○ アクティブ・ラーニングの推進

修士課程のアクティブ・ラーニングの拡充に向けて、平成28年度及び平成30年度に教員を対象とした導入状況調査を行っており、8割以上の授業でアクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業が実施されている。アクティブ・ラーニングの取組を共有するために、平成28年度からベストクラスに選定された授業の授業公開を実施し、他の教員が授業改善の参考にできるようにしている。また、学内のFD推進委員会の下に設置されるアクティブ・ラーニング研究会、学生・教職員FD交流会において、アクティブ・ラーニングについての理解と拡充を促進するために、PBL（問題解決型学習）、授業について語り合うワークショップ、反転授業、アクションリサーチをテーマとした研究会を開催している。（中期計画1-1-2-2）

1-1-3（小項目）

【判定】中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 専門職学位課程の充実

令和元年度に教科にかかわるコースを修士課程から専門職学位課程に移行させており、「学校経営コース」、「学校臨床科学コース」、「言語系教科マネジメントコース」、「社会系教科マネジメントコース」、「理数系教科マネジメントコース」、「小学校教員養成特別コース」、「グローバル化推進教育リーダーコース」、「教育政策リーダーコース」の8コースとしている。この8コースの設置により、教員のライフステージにおけるキャリア発達に即した学校経営リーダー、ミドルリーダー、新人教員の養成をより充実させている。（中期計画1-1-3-1）

○ 専門職学位課程における夜間コースの新設

令和3年度から教職大学院に夜間コース「学校教育コース」を新設している。コース開設にあたり、平成31（令和元）年度に設置した「教職大学院教育課程等連携協議部会」において出された教育課程改善への意見を基に、専門職学位課程の共通基礎科目の履修方法を見直し、併せて、現代的教育課題に対応できる授業科目を整備している。（中期計画1-1-3-1）

1-1-4（小項目）

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「連合大学院の拡充に併せた資格審査の実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

（優れた点）

○ 連合大学院の拡充に併せた資格審査の実施

教育実践学コンピテンシーに基づく学生指導を充実させるため、令和元年度の連合大学院の拡充に併せて、新規2大学において連合学校教育学研究科担当教員に係る資格審査を実施しており、平成30年度は、研究指導及び講義を担当する資格を有する主指導教員資格者19名、研究指導の補助及び講義を担当する資格を有する指導教員資格者10名、令和元年度は主指導教員資格者7名、指導教員資格者5名を認定している。（中期計画1-1-4-1）

（特色ある点）

○ 専門職教育者の育成

ディプロマ・ポリシーに沿って、第3期中期目標期間中に93名の学位授与（修了）の認定を行っている。そのうち約半数が大学教員として奉職しており、専門職教育者を育成できている。（中期計画1-1-4-1）

1-2教育の実施体制等に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標を達成している

（理由） 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

57 兵庫教育大学

1-2-1（小項目）

【判定】中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○ ベストクラスを活用した授業改善

FD推進委員会において、毎年度、授業担当者及び履修者への聞き取りを基に、学生による授業評価が高い授業をベストクラスとして選定している。選定された授業科目は、教育の質の向上及び改善のために、全学的なFD活動の一環として授業公開を行っている。平成28年度には、ベストクラスに選ばれた授業を分析して「良い授業」に共通する要素を抽出し、「良い授業」とは何かを問う学内シンポジウムを開催し、大学全体で意見交換を行っている。この一連の流れを踏まえ、授業改善の具体的指針を取りまとめている。（中期計画1-2-1-2）

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症による影響下において、オンライン授業を実施するにあたり、学内向けにSociety5.0研修会を開催している。研修会ではオンライン授業の進め方や学生から評価の高かった授業等について共有し、オンライン授業の質保証やICT活用力の向上に取り組んでいる。また、大学webサイトに学生向けの「オンライン授業形式での授業実施に向けた準備」ページを設置し、オンライン授業の受講準備についてのFAQや遠隔授業の受講方法の解説動画等を掲載している。

1-3学生への支援に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標を達成している

（理由） 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-3-1（小項目）

【判定】中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（優れた点）

○ 教員就職率の好成績

体系的な就職支援計画に基づき、教員採用試験対策の早期化、学生の英語力向上等支援の強化を行っている。特に教員採用試験対策として就職ガイダンス、教師力養成特別演習、就職対策強化研修を全学部生に受講させている。また、教職キャリア開発センターの取組と教員採用試験の合格率の関係について調査を行い、その結果を基に学生への就職指導を改善している。その結果、学部生の教員採用率は平成28年度から平成30年度にかけて80%を超えており、平成29年度には教員養成系大学・学部の中で全国1位（86.6%）となっている。（中期計画1-3-1-4）

1-4 入学者選抜に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標を達成している

（理由） 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-4-1（小項目）

【判定】中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ オンライン入試の実施

大学院学校教育研究科においては令和3年度入試から、連合学校教育学研究科においては令和4年度入試から、オンライン入試を実施している。このオンライン入試は全国の大学院に先駆けたもので、実施にあたっては、情報通信環境の整備、面接時間確保、口述試験の内容と配点について、十分に協議を重ねた上で実施している。（中期計画1-4-1-2、1-4-1-3、1-4-1-4）

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

2-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 共同研究プロジェクトの成果公表

平成30年度で研究期間を終了した連合学校教育学研究科共同研究プロジェクト1件(プロジェクトT「現代的学校教育問題への効果的な対応が可能な教員・臨床心理士の養成研究－性の多様性に関する国際研究と価値観の変容研究－」)の研究成果報告として、書籍出版4冊、雑誌論文発表6件、学会発表11件(うち国際学会4件)が行われている。また、教員及び臨床心理士への指針として活用されるように、本プロジェクトの成果を『LGBTQ+の児童・生徒・学生への支援』として出版している。(中期計画2-1-2-1)

2-2研究実施体制等に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

（理由） 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目） 2 項目のうち、2 項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2-2-1（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

2-2-2（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(Ⅲ) 現職教員の高度化に資する学び直し・研修に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「現職教員の高度化に資する学び直し・研修に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「教職大学院におけるコースの新設」が特色ある点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 教職大学院におけるコースの新設

平成28年度から、教職大学院に日本の新しい地方行政をリードする人材を育成することを目的とした「教育政策リーダーコース」及び国際社会で活躍できる人材を学校現場で育成することを目的とした「グローバル化推進教育リーダーコース」を、現職教員が通学しやすい神戸ハーバーランドキャンパスに新設している。(中期計画3-1-1-1)

○ 教育委員会との連携

大学と兵庫県教育委員会及び神戸市教育委員会が教員の養成・採用・研修を「教員育成」として捉え、育成する教員像を明確にするために取組の現状、課題、展望について意見交換を行う教員育成に関する懇談会を毎年度開催している。ここで得られた意見をもとに、教育委員会との連携による研修や、免許状更新講習、免許法認定公開講座等、現職教員や学校関係者を対象とした様々な研修を企画、実施している。実施結果を踏まえ、兵庫県内の市町教育委員会独自の指導主事研修に活用できる『市町教育委員会指導主事研修テキスト』を開発し、兵庫県教育委員会及び兵庫県内の44市町教育委員会に提供している。(中期計画3-1-1-1)

○ 学修成果の調査・分析

IR・総合戦略企画室が中心となり、卒業生・修了生等に対する学修成果等に関する調査を実施しており、大学院修了生は、学びの省察と自己課題の設定、子ども理解に優れていることが明らかになっている。IR・総合戦略企画室において分析・集計した結果は、兵庫県教育委員会、兵庫県教育事務所等の関係機関に兵庫教育大学の学びの特徴として紹介している。(中期計画3-1-1-2)

(Ⅳ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

4-1-1（小項目）

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「教員養成の高度化に向けた連携の推進」が特色ある点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 教育委員会との連携研修

学校現場の様々な課題等を解決するため、教育委員会と連携して研修を開催し、英語指導力向上事業、小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発事業、学校管理職リーダーシッププログラム及び教員用マネジメントプログラムの開発事業等において、研修プログラムを開発し、開発したプログラムを兵庫県教育委員会と共催で実施している。また、兵庫教育大学、教育委員会、教育センター、公私立学校、学校長会等関係者を構成員とする「現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト研修プログラムチーム会議」を毎年度開催し、現職教員に対する研修についてのニーズ調査や意見交換を行っている。実施した研修・講習の受講者アンケートの分析結果を次年度の研修・講習の企画立案へ反映させている。(中期計画4-1-1-1)

○ 教員養成の高度化に向けた連携の推進

6 大学で相互に授業科目を提供し、教職の専門性を深めることを目的に平成26年度に開始した教職アドバンスプログラムを発展的に解消し、高等教育に関する様々なニーズに対応しながら、大学間連携を活性化させるため、教職アドバンスプログラムの参加大学を含む兵庫県内の大学、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、鳥取県教育委員会、和歌山県教育委員会、大阪府教育委員会、京都府教育委員会、京都市教育委員会が連携して、教員養成・研修高度化連携協議会を発足させている。その下に、教職大学院教育課程等連携協議部会と学部・教職大学院接続部会を設置し、教員養成の高度化に資する大学の教育課程及び学部と大学院との接続について協議している。(中期計画4-1-1-3)

57 兵庫教育大学

(V) その他の目標

(1) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「その他の目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

5-1 グローバル化に関する目標(中項目)

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

5-1-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

5-2 附属図書館に関する目標(中項目)

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「附属図書館に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

5-2-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(2) 附属学校に関する目標

附属学校園では、大学と連携しながらその機能を強化し、先進的な教育・研究を充実させるとともに、地域との連携を重視し、地域のモデル校として社会に還元可能な先導的学校教育実践を深化させることにより附属学校園の存在意義を高めている。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○ 働き方改革の推進

教員の意識改革として、勤務時間の割振制度を導入しており、勤務時間の適正化・明確化を行うとともに、附属小学校及び中学校ではそれぞれ「校舎等の利用ルール」で校舎内等を利用できる時間を定めるなど、勤務時間外労働の解消に向けた取組を進めている。また、教職員間で共有する情報やスケジュールは、グループウェアを使用し、積極的に業務の効率化を行っている。

○ 先進的な教育・研究を充実させる取組

平成 29 年度に附属学校の役割（ミッション）や将来像（ビジョン）を策定し、附属学校としての存在意義・役割・特色を明確にするとともに、附属学校におけるプロジェクト学習やアクティブ・ラーニングの取組として、附属小学校では平成 29 年度からデザイン思考教育「未来デザイン」の研究を、附属中学校では平成 30 年度から「教科の本質的なねらいとのバランスがとれたクロスカリキュラムの研究」を実施している。その成果を、研究発表会を通じて全国の公立学校教員等に共有している。

○ 様々な教育課題の研究開発の成果公表

大学と連携しながら附属学校園の機能を強化し、先進的な教育・研究を充実させるため、附属学校におけるプロジェクト学習やアクティブ・ラーニングの取組として、附属小学校では平成29年度からデザイン思考教育「未来デザイン」の教育課程に関する研究開発を、附属中学校では平成30年度から「教科の本質的なねらいとのバランスがとれたクロスカリキュラムの研究」や地域住民が参加できる参加型公開授業（キャリア総合選択授業）を実施している。

これらの取組から得られた成果は研究発表会等を通じ、附属小学校では延べ1,100名の、附属中学校では延べ770名の公立学校教員等に対し、公開・共有している。

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

＜評価結果の概況＞	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善
(1) 業務運営の改善及び効率化				○		
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③女性の活躍・男女共同参画 ④事務等の効率化・合理化

【評定】中期目標をおおむね達成している

(理由) 中期計画の記載11事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるが、大学院専門職学位課程における学生定員の未充足があること等を総合的に勘案したことによる。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された計画(4事項)についてはプロセスや内容等も評価)

＜特記すべき点＞

(優れた点)

○ 教員養成・研修高度化センターの設置による教員養成及び現職教員の研修の高度化

教員養成及び現職教員の研修の高度化を全学的に推進するため「教員養成・研修高度化センター」を平成30年に設置している。同センターでは、独立行政法人教職員支援機構と提携し、教員養成・研修に携わる全国の大学・各種機関、教育委員会、学校等と連携協働し、養成・採用・研修の一体的改善を踏まえた教員養成の高度化を推進することを目的とするナショナルセンターとしての役割を担っている。加えて、開発した研修プログラムを大学教員、事務職員、学生に実施するなど成果を学内へ還元するとともに、兵庫県加西市とSTEAM教育の開発を共同で行うなど社会貢献の役割も果たしている。

○ マトリクス型の事務組織の設置による業務の効率化

教員養成・研修高度化センターを全学的に支援するために、教員養成・研修企画室を新設しており、室員のうち3名は、財務課、学務課、総務企画課の副課長が教員養成・研修企画室に副課長として兼任するマトリクス型事務組織を導入している。プロジェクト実施のために業務に関連する既存の課室から職員を集めて横断的な組織とすることで、意思決定及び業務のスピードアップ・効率化が図られるなどの成果が出ている。

(改善すべき点)

○ 大学院専門職学位課程における学生定員の未充足

大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が平成30年度から令和3年度において90%を満たさなかったことから、学長のリーダーシップの下、定員の充足に向けた対応が求められる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載5事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 一般管理費の削減に向けた業務運営の合理化・効率化

平成28年度に策定した一般管理費削減計画に基づき、警備委託業務・清掃業務・車両運行管理業務等の委託業務内容の見直し、会議資料や学生募集要項等のペーパーレス化の促進、電気供給契約の見直しによる光熱費の削減など、一般管理費の削減に努め、第3期中期目標期間中の一般管理費比率の平均は4.7%（対第2期中期目標期間平均比約2.0ポイント減）となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載3事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載7事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。